

映画から見る中東社会の変容

中東—「西」と「東」を繋ぎとめ、人類史の初期の時代から登場し、多くの民族、言語、文化、宗教、思想を育んできた文明と知の発祥の地。長い時代を通じて、様々な王朝や国家が現れては消え、平和と戦争が繰り返されてきました。

しかし、そこに変わらずあったものは人々の日々の生活であり、それぞれの人生の物語でした。

かの地の作り手たちの眼差しを通じ、この地域の移りゆく社会について学び、そこに生きる人々の生活や人生について考えをめぐらせてみようという会です。どうぞふるってご参加ください。



21回目の題材

『レバノン1949』

今回のテーマ 『再会』

1949年秋、メキシコで暮らすレバノン移民の家族がレバノンに一時帰国しました。父親が持参した16ミリフィルムのカメラは、里帰りに胸弾む家族の思いと独立後間もないレバノンの初々しい姿をとらえていました。

本研究会では、この貴重な映像記録を通して、独立直後の活気溢れるレバノンの「原風景」とそこに生きる人々の姿をご覧いただき、そこから読み取れるものを考えます。

フィルムの所有者は、メキシコシティ在住の画家でレバノン移民2世のアーイダ・フーリー(Aida Jury)氏。メキシコ国立フィルムセンター(Cineteca Nacional)のフィルム修復により、映像が65年ぶりに甦りました。(白黒/カラー 48分 サイレント、山形国際ドキュメンタリー映画祭2015上映作品)

日時：2016年5月30日(月) 18:45-20:30 (開場 18:15)

解説：黒木英充 (東京外国語大学AA研)

会場：東京大学 本郷キャンパス 福武ラーニングシアター

※ どなたでも

ご参加いただけます

※ 事前登録不要・参加無料

【共催】中東映画研究会、科学研究費「レバノン・シリア移民の
拡張型ネットワーク—自己多面化と空間構想力」(代表：黒木英充)

【後援】東文研東洋学研究情報センター・セミナー
東文研・班研究「中東の社会変容と思想運動」

お問い合わせ MEcinema2014@gmail.com